

大分川水系大分川ダム試験湛水中の効果（平成30年台風24号）

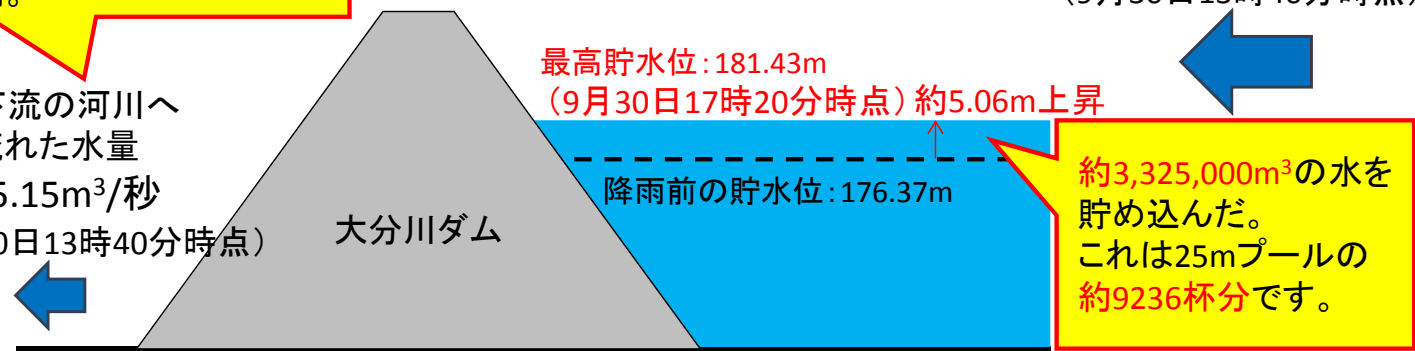
- 台風24号に伴う豪雨により、大分川ダム上流域においては、7月豪雨の192mmを大幅に上回る318mm(9月28日22時～30日16時)の累加降雨を観測しました。
- 大分川ダムは、現在、本格運用前の試験湛水中ですが、7月豪雨の約2倍となる最大332.5万m³(25mプール約9236杯分)の洪水を一時的に貯留し、ダム下流の七瀬川の水位低減を図りました。
- 大分川ダムの洪水貯留がなければ、七瀬川の水位は避難判断水位を超過していたと推定されます。
- 大分川ダムの完成に向け、引き続き試験湛水を着実に実施していきます。



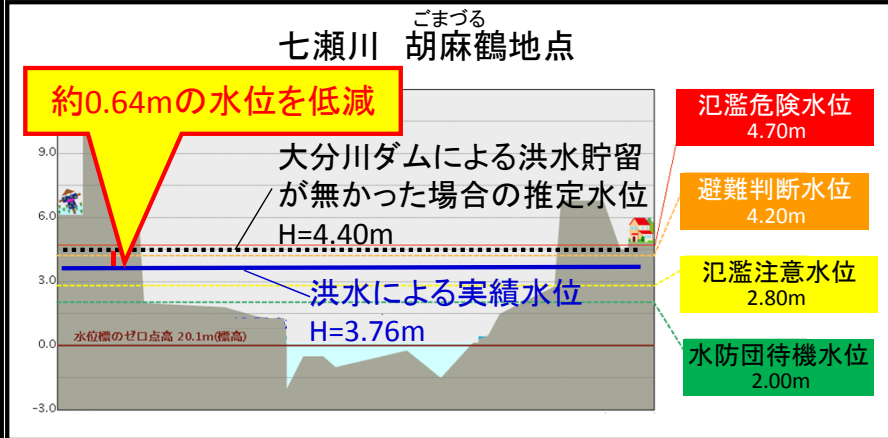
◆大分川ダムの状況

約242.2m³/秒 (=①-②)
少なくなって、流れていたと推測。

②下流の河川へ
流れた水量
45.15m³/秒
(9月30日13時40分時点)



今市雨量観測所(累加雨量): 318mm(9/28 22時～9/30 16時まで)



※本資料の数値は速報値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。